

東大の授業を受けてきました！ 第2回「TODAI 倶楽部」

R マスト委員会

- 1 日 時 平成27年9月4日（金）17時30分～19時「高校生のための金曜特別講座」
- 2 場 所 東京大学駒場地区キャンパス
- 3 講 師 東京大学大学院総合文化研究科 前島志保先生「『当り前』を見直す」
- 4 参加者 8名（1年生8名）
- 5 生徒感想

・雑誌の歴史にはそのときの時代背景が重なっていることがとても面白いと思いました。そして、小説の「当り前」についての興味も出てきました。大衆文化によって雑誌や新聞が影響されたのなら、小説などの文芸にも影響があったのではないかと思います。

・戦前に発売していた婦人雑誌は女性だけでなく男性も読んでいたことに驚いた。そして、婦人雑誌が一番売れていたことにも驚いた。

・夏休み中ということもあり、学食などは見られなかったのですが、外で行われているサークル活動などや、聞こえてくる音楽などには、やはり実際に来てみないとわからないことが多いなと思いました。

・東大という名前から苦手意識があり、自分でも理解できるのかと不安でした。しかし、「『当り前』を見直す」というテーマの通り、「そこにあるもの」とだけしか考えていなかった婦人雑誌も、明治からの歴史があり、文章だけだったものからここまで変わったのだと自分なりに理解することができました。

・一緒に参加したメンバーとも仲良くなることができました。皆、勉強に意欲的で、いろいろなことに積極的で、そういう人たちと知り合う機会になって良かったです。

・前島先生の最後の主張にもあったように、自分が思い込んでしまっていることにご門を持ち、考え直す姿勢を持たなければならないと、今回の講座から学ばせていただきました。

6 引率者報告

講義後も次々と寄せられる質問に「あなたはどう思いますか？」と問う前島教授は、生徒自身の考えを大切にしているようだ。本校卒業生の飯田は、物理学科でありながらも、歴史や哲学の本を読んでいて、文理の枠を超えた教養の大切さを示してくれた。参加生徒たちは、前列で熱心に聴講し、終了後もずっと質問の列を作っていた。学習意欲と好奇心にあふれる8人のこれからの活躍を期待したい。

